

企業ニュース 荏原

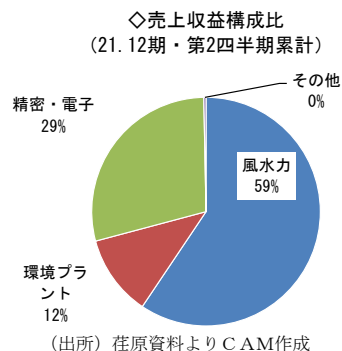
(東証1部: 6361) <http://www.ebara.co.jp/>

作成者: 奥村義弘

半導体製造装置関連として存在感高まる

1912年、ポンプメーカーとして創業。ポンプを主力製品として、コンプレッサ、タービン、冷熱機械、送風機などの風水力事業を展開。また環境プラント事業では都市ごみ焼却プラント、産業廃棄物焼却プラント、水処理プラント。精密・電子事業では真空ポンプ、CMP（化学機械研磨）装置、めっき装置、排ガス処理装置なども展開する。

22.12期までの中期経営計画では、基本方針として、事業成長への挑戦、既存事業の収益性の改善、経営・事業インフラの高度化、ESG経営の進化の4方針を掲げる。22.12期のKPI（最重要経営指標）としてROIC（投下資本利益率）8.0%以上、売上高営業利益率8.5%以上を掲げる。



風水力の収益性が改善、半導体関連の需要も旺盛

21.12期・第2四半期累計（1-6月）の業績は、受注高が3,449億円、前年同期比34%増、売上収益が2,742億円、同12%増、営業利益が249億円、同95%増。全事業で受注高、売上収益、営業利益が前年同期比増加した。セグメント別営業利益では風水力が134億円、同70%増。標準ポンプは建設設備市場が回復。カスタムポンプは中国向けが増加、不採算案件の見直しなども進み収益性が改善した。環境プラントは28億円、同30%増。ごみ処理施設の大型案件を受注、工事の進捗も順調であった。精密・電子が89億円、同158%増。半導体市場の設備投資は高水準で推移し、真空ポンプ、CMP共に好調。自動化工場の稼働で真空ポンプの収益性が改善した。

21.12期の会社計画は、受注高が7,010億円、前期比37%増、売上収益が5,915億円、同13%増、営業利益が560億円、同49%増。営業利益率は9.5%、前期比2.3ポイントの改善を見込む。コロナ影響、部材不足などリスク要因も加味した計画。5月時点の計画を、受注高で380億円、売上収益で175億円、営業利益で105億円上方修正した。最先端の半導体関連需要が旺盛で、CMPが好調である。ラインを増設し、需要に対応する。また真空ポンプの自動化工場の本格稼働で採算性が向上しよう。EUV露光装置向けの真空ポンプ排気システムの受注獲得なども期待される。

[株価動向・投資判断]

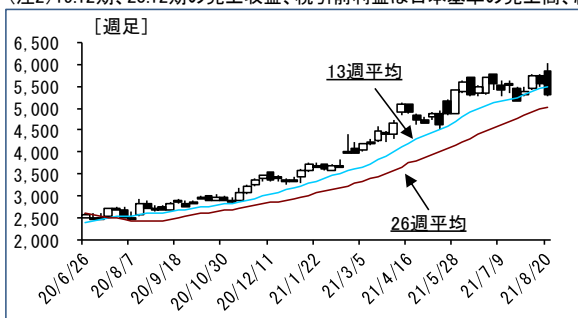
全事業で収益性の改善が顕著である。年間配当金予想を100円から130円に引き上げた。自己株式の取得も順調に進捗しており、株主還元面でも前向きに評価できよう。

<6361 荏原 業績:IFRS基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上収益	営業利益	税引前利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
19.12	522,424 (3)	35,298 (9)	35,571 (14)	23,349 (28)	241.8	60.00
20.12	523,727 (0)	37,879 (7)	36,859 (4)	24,473 (5)	256.9	90.00
21.12 予	591,500 (-)	56,000 (-)	55,500 (-)	37,000 (-)	388.5	130.00

(注1)21.12期・第1四半期よりIFRSを任意適用しているため、伸び率は「-」表示、本文中の前期比は適用を考慮後
 (注2)19.12期、20.12期の売上収益、税引前利益は日本基準の売上高、経常利益の数値



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2021/8/20)	5,310 円
年初来高値 (高値日)	6,020 円 (21/8/16)
同 安値 (安値日)	3,295 円 (21/1/4)
予想 P E R (21.12 予)	13.7 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	3,213.3 円
P B R	1.65 倍
予想配当利回り	2.45 %
(1株当たり配当金年130.00円)	
R O E (20.12)	8.4 %
発行済み株式数	9,550 万株